けるぞ此たうだいの御事よ、げにさる事ぞかし、

〔榮花物語十三ゆふしで〕東宮○小一條院敦明なにの御心にかおはしますらん、○中略皇后宮○小一條院母娍子に、一生はいくばくに侍らぬに、なほかくて侍こそいといぶせく侍れ、さるべきにや侍らん、いにしへのありさまにこゝろやすくてこそ侍らまほしけれなど、をり〳〵に聞えさせ給へれば、みやはいと心うき御心なり、御物のけのおもはせたてまつるならん○中略とて、所々に御いのりをせさせ給、○中略との○藤原道長のおまへにさるべき人して、かうやうになどまねび申さ、せ給、○中略殿まゐらせたまへり、○中略出家とまでおぼしめされば、いとことのほかに侍り○中略など、よく御心のどかに聞えさせ給てまかで給ぬ、そのまゝにやがて大宮○一條后彰子にいらせ給て、かう〳〵の事をなん春宮たび〳〵の給はすれど、さらにうけひき申さぬに、めしての給ひつるやうなど、こまやかに申させ給、○中略さても春宮には三宮○後朱雀こそはゐさせ給はめと申させ給へば、大宮げにそれはさる事に侍れど、式部卿宮○敦康のさておはしまさんこそよく侍らめ、それこそみかどにもすゑたてまつらまほしかりしかど、故院のせさせ給し事なればさてやみにき、此たびはかの宮のゐさせ給はんは、故院の御心のうちにおぼしけんほいもあり、宮の御ためにもよくなむあるべき、わがみやは御すくせにまかせてあらばやなん思侍るときこえさせ給へば、殿げにいとありがたうあはれにおぼせらるゝことに侍れど、故院もこと事ならず、たゞうしろみなきにより、かしこうおはすれど、かやうの御ありさまは、たゞうしろみがらなり、帥中納言○隆家だに京になきこそなどあるまじきことにおぼしさだめつ、

〔大鏡三左大臣師尹〕さきの東宮○敦明をば小一條院と申、いまの東宮○後一條の御ありさま申かぎりなし、つひのことゝはおもひながら、たゞ今かくとはおもひがけざりし事なりかし、○中略この院のかくおぼしたちぬる事、かつは殿下○藤原道長の御報のはやくおはしますにおされ給へるか、又お